

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020.10.1

発行責任者 小田桐 知哉

新人戦支部ソフトテニス：名寄テニスコート

男子ダブルス 和田・畑田ペアが3位

男子シングルス 山本君2位 村瀬君3位

第48回高校新人戦ソフトテニス大会名寄地区予選(個人戦)が8月22～23日に名寄市営麻生コートで行われた。

男子の部には名寄高校・下川商業高校・名

寄産業高校の3校が参加し、ダブルスでは和田快音君(2B)・畑田裕也君(2B)ペアが3位、シングルスでは山本烈王主将(2C)が2位、村瀬翔汰君(2A)が3位となった。



速い動きでランニングボレーを決める畑田裕也君(後ろは和田快音君)



力強くボールを打つ山本烈王君(前は村瀬翔汰君)

1日目はダブルスが行われ、名高からは山本・村瀬ペア、和田・畑田ペア、大河内福ノ介君(2A)・八島英雅君(1C)ペア、片岡淳君(1C)・渋谷健太君(1B)ペアの4ペアが出場。和田・畑田ペアは予選Aブロックで1勝2敗の3位、山本・村瀬ペアはBブロックで2勝1敗の2位で、ともに決勝トーナメントに進んだが、片岡・渋谷ペアと八島・大河内ペアはそれぞれAブロック、Bブロックで3敗の4位となり、ともに7位決定戦に進んだ。

決勝トーナメント1回戦で和田・畑田ペアと山本・村瀬ペアがいきなり対戦。第1ゲームは山本・村瀬ペアのストロークやボレーがネットにかかり、4-2で和田・畑田ペアがこのゲームを先取する。第2ゲームも山本・村瀬ペアにミスが目立ち、和田・畑田ペアが3-1と優位に立つ。ここから山本君がストロークをコースに決め反撃するも、5-3で和田・畑田ペアが連取する。第3ゲームは山

本君のサービスエースなどで1-3。山本・村瀬ペアに流れが傾いたかと思われたが、和田・畑田ペアが反撃しデュース。ここで山本君のストロークが連続してアウトとなり5-3でこのゲームも和田・畑田ペアが奪う。第4ゲームも山本君のストロークや村瀬君のボレーがアウトとなり、3-0と和田・畑田ペアがマッチポイントを握る。ここで、村瀬君が意地のボレーを決め3-1とするが、最後は山本君のロブがアウトとなり4-1。ゲームカウント4-0で和田・畑田ペアが勝利し準決勝に進出。山本・村瀬ペアは本来の力を発揮できず、5位となった。

和田・畑田ペアは準決勝で三樹・上西ペア(下商)と対戦。第1ゲームは相手に2点を先制されるも、和田君のサービスエースなどで3-3のデュースとする。その後、互いに点を取り合い白熱するが、最後は和田君のストロークが続けてミスとなり、5-7でこのゲームを奪われる。第2ゲームは畑田君のボレーミスや和田君のストロークがネットになり、0-4で連取される。反撃したい第3ゲーム



コースを狙ってサーブを打つ和田快音君



強烈なスマッシュを打つ村瀬翔汰君

は、0-1から畑田君が強烈なボレーで1-1。ここから熱い攻防が続き、再びデュース。互いに2点を追加したところで、畑田君がボレーを決めてゲームポイント。すると、相手のストロークがネットにかかり7-5。和田・畑田ペアがこのゲームを取り、ゲームカウント1-2とした。続く第4ゲームも接戦となりデュース。ここで名高ペアは積極的に攻め、畑田君のボレーと和田君の強いストロークが連続で決まり5-3。このゲームも奪い、ゲームカウント2-2のタイとする。第5ゲームも熱戦で4度目のデュースとなる。しかし、3-3から2連続失点して3-5。ゲームカウント2-3と後がなくなる。第6ゲームは名高ペアのロブやストロークが僅かにアウトとなり2-4。その結果、デュース4ゲームの大接戦を展開したものの、ゲームカウント2-4で敗れ3位となった。

八島・大河内ペアと片岡・渋谷ペアは全道大会出場権をかけて、7位決定戦で対戦。第1ゲームはデュースから、八島・大河内ペアが粘り強くボールを返し得点すると、大河内君のストロ

ークが決まり5-3で先取する。第2ゲームは渋谷君のボレー、片岡君のストロークが決まり0-2。しかし、大河内君のサービスエースなどで再びデュース。すると片岡・渋谷ペアにミスが続き、八島・大河内ペアがこのゲームも連取する。しかし、第3・第4ゲームでは八島・大河内ペアにミスが続き、2-4、1-4で片岡・渋谷ペアが取り、ゲームカウント2-2のタイとなる。続く第5ゲームは序盤、渋谷君のボレーなどで片岡・渋谷ペアがリードするが、ここから大河内君がボレーを決めるなどして5-3。八島・大河内ペアがゲームカウント3-2で優位に立つ。第6ゲームも接戦となり4度目のデュース。ここで、八島・大河内ペアにミスが続き、3-5で片岡・渋谷ペアがこのゲームを奪い、勝負はファイナルゲームへ。ファイナルゲームは渋谷君が2本のボレーを決めるなどして0-4とリード。すると、負けじと大河内君がボレーを連続して決め2-4。しかし、八島・大河内ペアにミスが続き3-6となると、最後は渋谷君が華麗にスマッシュを決め3-7。片岡・渋谷ペアがゲームカウント3-4で勝利し、7位で全道大会出場権を獲得した。

2日目はシングルスが行われた。名高男子



相手の位置を確認してレシーブを放つ大河内福ノ介君



バックハンドでラケットを振り切る渋谷健太君

はダブルスに参加した8人が出場。

八島君と村瀬君は1回戦から登場し、ともに勝利した。他の名高選手たちは2回戦から登場。畑田君、渋谷君、大河内君、和田君、片岡君、佐々木君、八島君は2回戦で敗れたが、山本君と村瀬君は勝利し3回戦に進んだ。

3回戦で山本君は下商の桑原君と対戦。コースを突く正確なストロークで試合を優位に進め、3-1で快勝した。村瀬君は下商の上西君と対戦し、強打を織り交ぜながら粘り強くボールをつなぎ、3-2で接戦を制した。

3回戦を突破した山本君と村瀬君は準決勝で対戦。ダブルスでペアを組む2人は互いに力を認め合う仲だが、ここは真剣勝負に徹し懸命のプレーをぶつけ合う。結果は山本君が3-1で勝ち決勝に進出。村瀬君は3位となった。

決勝で山本君は下商の米澤君と対戦。

山本君は丁寧にコースを狙ってストロークを放つが、今大会のダブルスを制した米澤君の強いストロークに苦戦する。最後は0-3で敗れ、2位となった。

シングルスも7位までが全道大会へ出場。名高からは山本君と村瀬君が全道出場権を獲得した。

メンタル面が課題と痛感 山本 烈王 主将

勝てば全道につながる大会だったので、いつも以上に気を引き締めて練習に取り組んだ。その練習の中でも色々なパターンに対応できるようなメニューを取り入れた。

この大会の試合中、どこに球を打てば良いのか、相手のいやがるプレーをするには

どうしたら良いのかを考えすぎてしまい、思うようにラケットが振れなくなってしまう。チームを通してメンタル面が課題だと痛感した。全道大会では強い相手が多い中で、自分のできることを思い切って発揮していきたい。

全道では一つでも多く勝利を 吉原 怜次 監督

大会前は一つ一つのプレーを大切に練習に取り組むよう指導した。

予選リーグの初戦では全ペアが敗戦してしまい、スタートの悪さが目立った。最初からエンジンをかけること、メンタル面がこれからの課題。ミスが多かった部分もあ

り、しっかり入れなければならないところ、決めなければならないところでミスが出てしまった。

全道大会に出場する選手が多いので、とにかく一つでも多く勝ち星をあげてほしいと思う。